

掲示板のことば

時機

純熟の

真教なり

親鸞聖人『教行信証』

2024. 06

この言葉は『顕浄土真実教行証文類（教行信証）』6巻のうち、浄土をあきらかにする真実の教えについてまとめられた「教巻」に記されている言葉です。

親鸞聖人は、真実の教えとは阿弥陀仏の本願が説かれる『仏説無量寿経』であると断言されます。そして、長い間お釈迦さま（仏陀）の側に付き従っていた阿難という仏弟子が、昨日と違って光輝く仏陀のお姿を問い訪ねたこと、そしてその問いがきっかけとなり『仏説無量寿経』が説かれたことが記されています。

今までと違い今日に限って、なぜ光輝いて見えたのか。それは、仏陀が実際に光っていたわけではなく、その日の阿難にとっては、仏陀が光に見えたということです。つまり阿難は、仏陀が自分を照らす存在としてあらためて出遇ったということでしょう。それが、機が熟する、ということです。

昨日までは、仏陀の説法はどこかの誰かの話だと聞いていたのかもしれませんが。その仏陀の説法を、今日は自分自身のこととして聞く準備ができていたということです。だから、仏陀のお姿が、私を照らす光だと受け止められたのでしょう。

『仏説無量寿経』は阿難の問いに始まり、阿弥陀仏の物語が説かれています。仏陀が、阿難に教えを聞く準備ができたこと、もっと言えば、阿難の問いかけはいのちあるものすべてを代表した問いであると受け止めて説かれたのです。

教えが真実であるということは、問いを持つ者（機）にとって、その問いに応える教えが、今、まさに熟した、時機純熟の教えであるということなのです。

真宗大谷派 光明寺住職 小林尚樹